

(様式第3号)

令和4年9月2日

石巻市議会議長 安倍 太郎 殿

会派名 日本共産党石巻市議団
代表者名 団長 水澤 富士江

調査報告書

調査した概要は次のとおりであります。

記

- 1 調査者氏名 水澤 富士江、齋藤 澄子
- 2 調査期間 令和4年 8月24日 1日間
- 3 調査地 (1) 秋田県 東成瀬村
及び調査内容 ・学力向上策について
・若者の移住定住等について

4 調査目的

秋田県 東成瀬村

- 学力向上策について
- 若者の移住定住等について

秋田県は全国学力状況調査で上位の成績であるとともに、若者の移住定住施策として、地域づくり事業協同組合や地域おこし協力隊事業を行っており、また東京からの移住者が経営している、第三セクターの東成瀬テックソリューションズ株式会社の創業など、様々な取組が行われていることから、本市の学力向上策及び移住定住施策の参考とする。

5 調査概要

秋田県 東成瀬村

ア 学力向上策について

東成瀬村では、高校生を含め、村民アンケートを実施し他の市町と合併をせずに三年前に130年を迎えた。

学力テストの点数だけにこだわらず、35人少人数学級をといち早く取り組んだ。地方自治をつらぬくためにも生きる力を持つために隅々まで行き届いていけるように単独な村、人づくり（福祉等）政策に力を入れてきた。

村民一体となって子どもたちの学びを支える教育現場「村づくりは人づくりから」をスローガンに手厚い子育て政策、教育政策、福祉政策に取り組んできた。教育には、保護者や地域住民の関心も高く、オープン授業の際には120%の参加となっている。

○東成瀬小学校 平成13年 4校を1校に統合
児童数 80人 教職員 20人

○東成瀬中学校 昭和52年 5校を1校に統合
生徒数 50人 教職員 19人

●教育行政基本方針

- 1 村だからできる・やる教育（実態）少人数学級
- 2 継承と発展の教育（歴史と伝統）コーディネーター1人、200以上の方がボランティア
- 3 社会総参加の教育（個性の尊重）
- 4 地域づくりの教育（積極的参画）地域のコミュニティー活動に参加
- 5 創意工夫の教育（不易と流行）探求型授業

●学力向上

（1）基本的な考え

- ・「これぞ」「これさえあれば」・・・決め球はない
- ・当たり前のことを当たり前にできる子ども
- ・授業づくりと土台を

（2）最小限の条件

- ①子ども 素直、仲がよい、頑張り屋
- ②教職員 教育愛、一人一人
- ③保護者 理解、協力
- ④地域住民 慈愛、支援
- ⑤行政 条件整備、財政支援

（3）授業改善

①探求型の授業

- i めあて・学習課題の表示
- ii 発表の場の設定

iii 学び合いの場の設定

iv 振り返りの充実 (まとめ)

② 授業の基本パターン

「かかわり」をキーワードに「探求型授業」の実践

1, 導入 課題とのかかわり：課題設定

子どもが課題をつかむ (今日の課題) 一日一工夫

2, 展開 仲間とのかかわり：学びあう

バレーボール型

子ども同士がかかわり合って学びあう

3, 終末 自分とのかかわり：まとめと振り返り

子どもが自分で「わかった」「できた」を振り返る

自己認識力、自ら学ぶ意欲へ→家庭学習 (自主学习) 新しい課題意識

③ 授業改善のテーマ

教師のコーディネート力向上による授業の活性化

しかける、引き出す、ゆさぶる、つなげる、広げる

一対一、一問一答の授業から豊かな関わりのある授業へ

④ 展開部でのかかわり：仲間とのかかわり

子ども同士の豊かなかかわり

⑤ 展開部での学び合い

⑥ 終末部でのまとめ振り返り

◎まとめ・振り返り⇒自己認識

何が...分かる・分からない・できる・できない

→新たな課題認識

↓ 自ら学ぶ意欲へ

授業から家庭学習 (自主学习) への連動

振り返りから広がる家庭学習：自分自身が課題をもって取り込む自主学习

⑦ 構造的な板書 (黒板の書き方にも工夫をしている)

⑧ 構造的なノート (黒板の書き方と連動してノートの書き方にも工夫がある)

⑨ ハンドサイン (ただ手を挙げるのではなく挙げるサインを見て教職員が把握する)

(4) 学力向上の土台

① 自主学习ノート (家庭学習ノート)

自分で課題に取り込む (学年プラス10分)

・自学レベルアップ作戦～先輩からのアドバイス

(良い取り組みは廊下へ張り出している)

(自主学习、家庭学習ノート終わったものはみんなが見れるように廊下に置いている。また参考にするため貸し出しもしている。)

イ 若者の移住定住等について

○移住・定住のための取組について、企画課長様より説明を頂いた。

第5次東成瀬村総合計画（令和3年度～令和7年度）

基本目標

1. 豊かな自然を活用した産業づくり
2. 安全で安心して暮らしやすい環境づくり
3. 郷土の発展を担う気概あふれる人づくり
4. 生きがいを持ち共に支え合う地域づくり
5. 人にやさしく住みよい基盤づくり
6. 人口減少に立ち向かう村づくり…総合戦略

基本目標6 人口減少に立ち向かう村づくり

○重点プロジェクト1 村への人の流れをつくる

基本施策① 雇用創出のための産業振興…地域づくり事業協同組合（令和2年～）等

基本施策② 移住・定住対策…定住促進空き家活用事業、住宅リフォームの支援、地域おこし協力隊等

基本施策③ 新たな交流対策…東成瀬村応援団事業、ふるさとの文化財再発見事業等

○重点プロジェクト2 若い世代の結婚・出産・子育てをかなえる

基本施策① 少子化対策…子育て支援金、小中学校給食費無料化、奨学金貸付、高校生通学日支援事業、福祉医療給付事業、赴任治療費助成事業等

基本施策② 子育て支援…子ども家庭総合支援拠点の整備、地域子ども・子育て支援事業、ひとり親家庭支援事業等

●東成瀬村地域づくり事業協同組合

設立 令和2年12月1日

根拠法令 地域人口の急減に対処するための特定地域づくり事業の推進に関する法律（令和元年法律第64号）

組合員数 12事業所

出資金 150万円

組合の位置づけ 人口減少、少子高齢化による働き手の解消、夏季の農作業と冬季の観光業による通年雇用の創出、村内に働く場所の確保、多様な働き方による移住・定住促進

●東成瀬村地域おこし協力隊

活動内容等 YouTube等を活用した村の魅力や情報の発信（5人）、

I T課題の解決を図り、住民サービスの利便性向上に係る活動（民間なるテック17

人=第三セクター方式、資本金500万円

6 所感及び石巻市への政策提言等について

(1) 秋田県東成瀬村

●学力向上策について

石巻市においても35人、少人数学級にして学習など児童生徒に教職員の方々が目が行き届くような環境、また保護者など学力に対して関心が持てるような環境づくりが必要なのではないかと。東成瀬村のように自主学習ノート・家庭学習ノートを借りて持ち帰り、他の子どもがどのような学習をしているのか保護者も見れる取り組みも他の子どもの良い学習のやり方などをどんどん真似出来て良い取り組みだと思った。また、授業中でのハンドサイン。挙げ方を工夫して、意見、別の考え、同じ、つけたし、納得、困った。子どもたちの意見でサインが増えていったそうである。困っている子どもを置き去りにしない工夫は大切だと感じた。放課後学習会においても教職員が入り今日の授業で分からなかったところを教えてあげている。支援員も大切かと思うが、授業を把握している教職員が入ってくれることで一人も置き去りにしない取り組みは大事なのではないかと。

●若者の移住定住等について

平成の大合併に加わることなく、人口2,400人、豪雪地域の村の一人ひとりをお大切にしたい高い学力の教育と、同時に第三セクターの企業には120名もの申し込みがあり、5年間で100名にしたいと社長の発言がNHKで報道され視察をさせて頂いた。

第三セクターの従業員を核に多くの移住者を獲得し、その家族により村の人口が増加。

東成瀬村の高水準な教育を受け、次世代の東成瀬村が形成される、と産業と教育の関連性も誇っている。時間はかかっても、この観点は重要だと考え、提言する。

7 調査経費 17,230円

8 添付書類 別添資料のとおり

お問い合わせ

石巻市議会事務局 議事調査係

〒986-8501 宮城県石巻市穀町14番1号

Tel : 0225-95-5080 (議会直通)

Fax : 0225-96-2274

Mail : assesc@city.ishinomaki.lg.jp